

第5回 創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議

日時：令和6年5月22日（水）10：00－10：59

場所：官邸4階 大会議室

- 議事：1. 開会
2. 中間とりまとめ（案）について
3. 意見交換
4. 閉会

配布資料：資料1 中間とりまとめ（案）概要
資料2 中間とりまとめ（案）
参考資料 第4回会議における構成員の意見

出席者：村井 英樹	内閣官房副長官
鴨下 一郎	内閣官房参与
岩崎 真人	前武田薬品工業株式会社代表取締役
岩崎 甫	山梨大学副学長・融合研究臨床応用推進センター長
上原 明	大正製薬株式会社取締役会長
高橋 政代	株式会社ビジョンケア代表取締役社長
永井 良三	自治医科大学学長
藤原 康弘	独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長
牧 兼充	早稲田大学大学院経営管理研究科准教授
間野 博行	国立研究開発法人国立がん研究センター研究所長
南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究担当
山崎 史郎	内閣官房全世代型社会保障構築本部総括事務局長

○岩崎（真）構成員

- 現在及び今後の創薬はモダリティが多様化し、これを支える人材・専門性も多様性が求められる。よって、アクセレーターやインキュベーターの育成・強化・支援においてはコンソーシアム等による広く一律のようなやり方ではなく、テーマごとに専門性の高い人材・企業の能力が発揮できる環境、仕組みが必要である。
- 創薬・医療は日本の強みを生かせる成長領域・基幹産業たるものであり、公的保険・民間保険の在り方を含めて、我が国が薬を生み出す・育てる・売るという3つの観点から魅力ある存在となっていかなければならない。
- 分かりやすい産業政策として、国民はもちろんのこと海外のステークホルダーに力強く発信していくことを期待したい。

○岩崎（甫）構成員

- 臨床試験体制の強化に関して、橋渡し研究拠点や臨床研究中核病院にとどまらず、他の大学病院、特定機能病院等の強化を目指すことも必要ではないか。
- シーズの創出、質の高い臨床試験の実施には、ゲノム創薬やAI創薬も視野に入れた生物統計家、データサイエンティストの養成が喫緊の課題であり、官民協力も視野にいられたの専門人材の育成が重要である。
- 中長期的に全体戦略を堅持しつつ政策を推進することが重要であり、官の組織の在り方についても中長期的な戦略を構築して実施するに相応しい体制が必要ではないか。

○上原構成員

- セルフケア・セルフメディケーションの推進においては、生活者自身が必要な情報を興味を持てる形で提供する必要がある、アニメ・動画やAI等の情報技術を最大限活用し、健康情報リテラシーを高める方策を考えるとともに、情報やサービスを提供する側の薬剤師、栄養士、登録販売者、理学療法士等の在り方も検討すべきではないか。
- スイッチOTC化のプロセスについても、グローバル化を念頭に置いた制度の在り方を追求すべきではないか。

○高橋構成員

- 成長産業としての医療と患者中心の医療の両立が重要であり、患者と企業をつなぐシーズの価値の見極めにおいて、大学病院をはじめとする医療者が担う役割は大きい。高度な医療に対する民間保険の活用、中核病院に限らない大学全体の底上げを含め、あり方を検討すべきである。
- 政策の立案にとどまらず、その運用を含めてフォローすることが重要である。
- 希少疾患やCDMOへの支援においては、米国等の後追いではなく、我が国独自の価値を追求すべきではないか。

○永井構成員

- 我が国もこれまで医薬品開発の支援を行ってきた。技術・モダリティの変化に対応できなかった過去の反省を踏まえ、エコシステムの構築や様々なプレイヤーの連携を促進していくことが重要である。
- 創薬・医薬品産業振興はこれまで行政の谷間にあったのではないか。大学病院やアカデミアの強化、スタートアップの支援、さらには創薬にとどまらず医療産業全体を成長産業とするうえでは、変化に対応できるしっかりとした司令塔機能を確立すべきではないか。

○藤原構成員

- 創薬力の向上に向けて、短期的には臨床試験の実施能力の強化が重要であり、中長期的には基礎科学力のこれまで以上の進歩、あるいは強化が必要である。
- 臨床試験の教育観点から、医学教育・看護教育についての進化が必要である。
- 将来のパンデミックに備えるという観点からも、国民の臨床試験に対するリテラシーの向上が必要である。
- 今後のフォローが重要であり、特にAMEDの強化やあり方について問題を改善していく必要がある。全体として臨床試験にどの程度の予算が措置されているか、公的資金の効果の高い小児や希少疾患に対してはどうかといった観点から、継続的に取り組むべきである。
- 創薬を支える公的部門に優秀な人材を確保できるよう、待遇の在り方について検討すべきではないか。

○牧構成員

- 政策は細部に宿るので、政策の立案や予算の措置に満足するのではなく、予算執行の優先順位付けや執行後の評価の体制を整備することが重要である。
- KPIの明確化やベンチャーキャピタル・アクセラレーターの役割、ファンディングの在り方といった中間とりまとめの段階では解像度が高くない部分を含め、今回の内容をアップデートしていくべきである。
- 中間とりまとめを踏まえ実行される政策の最大のステークホルダーは、今は健康であるものの将来病気となる人々ではないか。そのような方々に、この政策を自分事と捉えてもらえるような発信が重要である。

○間野構成員

- 新しいモダリティが次々と登場する中、我が国がそのスピードに追いついていけないことが問題の本質ではないか。
- 医療産業はIT産業と並んで、これから最も大きなマーケットになる産業である。国民のための医療安全保障の上でも、成長産業としての経済安全保障の上でも、エコシステムの構築を実現化していくことは非常に重要である。

○南構成員

- 全ての国民に、医薬品産業・医療産業が重要な日本の成長産業・基幹産業であるという認識を明瞭に持ってもらうことが非常に重要である。
- 創薬という大きな構図の中の「川上」として人材教育の問題を強調したい。とくに薬学部が6年制の薬剤師教育に移行して20年近く、研究者を養成するはずの4年制薬学部は大きく後退してしまっている。元に戻すということではなく、応用工学・化学分野なども含め、創薬に資する研究者をどのように育成するのか、慎重に議論する必要がある。

○山崎構成員

- 若年層が減少する中で、研究に従事する人材をどのように養成確保していくかという観点から、薬学部をはじめ大学教育のあり方を考えていくべきではないか。
- AMEDの中で省庁の壁があるという指摘を真摯に受け止め、本当の意味ですべての力を結集できるように司令塔機能を発揮していくことが重要である。

各構成員から上記の意見があったのち、中間とりまとめ(案)について成案とすること、また、副題は「世界の人々の健康に貢献するトップレベルの創薬の地を確立する」とすることが了承された。

以上